相互討論会

「広島は何をなすべきか
― 次期全総への提言 ― 」

司　　会　　櫟　本　　功（広島大学経済学部附属地域経済研究センター長）
発 言 者　　橋　口　　収（広島商工会議所会頭、㈱広島銀行取締役相談役、
　　地域経済研究センター顧問）
　　矢　田　俊　文（九州大学経済学部教授、
　　国土庁国土審議会計画部会専門委員会委員長代理）

1．はじめに：リニヤモーターカーはどこに停まるのか

櫟本：最後の相互討論会ということで、橋口会頭と矢田先生に基本的にはお二人で大喧嘩をして頂くと大変ありがたいのですが、どうもお二人共人柄が大変お宜しい方ですから、喧嘩を仕掛けるのは私の方でないとなかなか自主的に喧嘩をして下さらないと思います。橋口会頭は身内の方ですから今更ご紹介するまでもありませんが、矢田先生は先程もおっしゃいましたように、札仙広福の中枢都市に関する研究会にかねがねご一緒さ

せて頂きましたし、四全総のフォローアップとかそういった次の全総関係で国土庁でご一緒させて頂きました。かねがねこういう国土構造に関するわが国の理論的権威として高くご評価申し上げているところです。

櫟本　功　氏

元々新潟の方ですから、特別に九州がいいとか福岡がいいというような、そういう地域エゴのある方では全然ありません。逆にそういう方が福岡をご評価されますと説得力が増して参ります。その説得力を増す段階で、どこかを上げようと思えばどこかを落とせばいいわけで、一番格好の材料が広島であります。今日は広島の悪口を言って下さいと申し上げたのですが、結構遠慮されてあまりおっしゃってくれません。結局最後におっしゃった、福岡・北九州・広島という政令市の三つ、福・北・広の経済圏というお話がありましたが、あれは上手におっしゃったわけで、私の聞きようでは要するに中枢都市広島というのは将来無くなるよというご発言だったと思います。

事実、のぞみが開通致しました当初、朝一番に東京駅を６時に発車しまして次は新横浜駅に停まりまして、その次は天下の名古屋と京都を飛ばしまして大阪に着くというダイヤでした。つまり東京の人は大阪に行けばいいわけで、天下の名古屋や京都は眼中にないわけです。幸いなことに中国地方はのぞみが岡山と広島の両方に停まります。しかし結局のぞみは山口県の駅はどこにも停まらないで、スキップしております。天下の名古屋を飛ばすくらいですから山口県は飛ばすのは当然です。今は名古屋の方の圧力があったのでしょう、のぞみも名古屋に停まりますし、京都も停まります。ＷＩＮ360も多分同じだと思います。

但し、ちょっとお二人に質問なんですが、ＪＲ系のスピード500キロのリニヤモーターカーがやがて完成したら、東京の人は名古屋や京都は多分スキップするでしょう。大阪から福岡に行くのに、中国地方を通るのか四国を通るのか分かりませんが、どちらにしても岡山で停まるのか広島で停まるのかあるいは両方で停まるのか。しかし東京－大阪間を途中の名古屋や京都をスキップするのに、岡山と広島の両方に停まることはないし、両方ともスキップされるか、岡山か広島のどちらかに停まるとすると、そういう時点で地方中枢都市広島は生き残っているかということですが、その辺からお話し頂けますか。

２．日本の空間再編と拠点都市

矢田：櫟本先生と札仙広福の代表者が話をしていると８割がた同じ話ですから、あえて差別化するという議論を一度やった時に、先生が本気に怒ったように思いました。その話はこういうことでした。先程も言いました巨大組織が日本全体を管轄していくというシステムが、これが札仙広福をかなり大きく上昇させていった。高速交通体系が整備さ

れ、情報化時代になっていた時に、三大都市以外に札仙広福プラス金沢・高松という、三都市を除くと六つの都市を第２拠点にして再編成してきたという地域分割原理が果たして続くのだろうかという議論でした。ひょっとしたらこれをいくつかオミットして再編成していくのではないかということです。将来の分析ですからああでもないこうでもないと言えるのですが、具体的には二つの方向が考えられます。

矢田　俊文　氏

一つはＪＲの分割の方式です。東京・大阪・名古屋の本社を作ってそして札幌と福岡の本社を作る。仙台を東京の、広島を大阪のブランチにしてしまった。これはＪＲだけではありません。三大紙や日経新聞の本社配置というのを見ると、東京・大阪・名古屋・札幌と福岡・北九州に本社をおいている。要するに日本を効率的に市場分割する時には５つで宜しいという発想です。北の方は札幌、西の方は福岡という巨大な拠点をつくりながら再編成されていくわけです。商社の支店配置を見ていくと相変わらず広島・仙台というのはしっかりと支店を持っています。しかし、従業員の数がかなり整備されてかなり差がついています。さらに支社長の格付けが札幌と福岡がだいたい取締役になっているケースが少なくない。その辺から見るとどうも巨大企業の日本の空間編成の中から、これだけ日帰り交通圏が拡大してきますと、中四国は大阪からか博多からかによって１日でビジネスができるという圏域に入ってくる、中四国が西と東に、東北が北と南に離れていって日本が五大圏域になるのではないかということです。

これが、ある研究会で報告された国際交流圏構想で五分割です。伝統的な小学校の教科書では九州地方・四国地方・中国地方と学ぶのですが、そろそろ中四国というのは一つになってきていますし、ひょっとしたらそんな回りくどい地域よりも五つではないかということです。そうすると札仙広福の間にもう１回揺さぶりがかかってくるであろう、この中で、札仙広福をどういうふうに戦略的に構築するかということを問題提起しました。一つはそういう日本を五つに分割するストーリーです。

もう一つは全く逆に福祉とか医療とか教育になると、より細かな単位の中で拠点を作っていくということです。九州は福岡であってはとても間に合わないで、高度医療というのは鹿児島を軸にして南九州に一つ拠点をつくり、中四国というのは三つか四つに分かれて、山陰でもそれなりに整備をしなければならない。四国でも整備をしなくてはならない、北陸は決して大阪や名古屋や東京とリンケージするだけではだめで独自に、高次公共サービスを整備していく必要がある。ほぼ人口500万単位ぐらいの所で高次機能の整備ということが出てくるとすれば、中四国一体化とか九州一体化ではなくて、むしろ南九州・北部九州や山陰、山陽、四国の整備というものが出てきます。この二つの力がどちらも働くのだろうか、どちらにしても札仙広福というのがいつまでも同列ではなくな

るだろうという話になります。今だに櫟本先生は納得しません、依然として反論があります。私は先程言いましたが福岡びいきであるとは決してありませんし、たかだか14年しか住んでいませんし、現在50数才ですが残りの40年は全然別な所に住んでいましたから、非常に冷やかに福岡をみております。福岡市が何でもやることには基本的にはあまり賛成でありません。尚且つそういう客観的な動きがあるのかなと思うわけです。しかし、どうも日本の空間システムを考えた時に、分割スタイルというものが出てくるのだろうということです。そうすると広島はどうするのかということが、私が突きつけている最大の問題であります。逆に櫟本先生からもう一度反論をお聞きしたいと思います。

3．札仙広福の比較と広島の地位低下

櫟本：簡単に言えば矢田先生と私とのかねがねの論争はここにあるわけです。しかし矢田先生のご意見は非常に説得力があるということも認めざるを得ません。わが国の中で拠点を抑えようと思えば先ず東京です。二番目はどうしても大阪です。名古屋がちょっとあやしいなという感じで、名古屋は物の生産は大きいのですが、私の計算によると拠点としての中枢機能が福岡とあまり変わらない状況になっています。大きい都市かもしれないけれどひょっとしたらスキップされるかもしれません。そうすると東京・大阪は確実ですが、北は札幌か仙台でしょうし、四つめは福岡です。ところが名古屋がスキップされるくらいなら広島も当然でしょうが、橋口さんこの辺はいかがでしょうか。

橋口　　収　氏

橋口：札仙広福というのが大きな話題になった時に、環境というものを考えてみますと、広島は札仙広福の中で全ての点で劣位にあるという、そういう危機感から札仙広福が手を取って中枢都市として風格を高めようということで始まったと思います。札幌というのは終戦の時はだいたい20万ちょっとで、広島が40万位だったのが原爆で20万くらいになって、ほぼ同じ人口規模だったわけです。北海道はこの僅か30年の間に、函館・小樽というのが20万前後に転落しまして、札幌は170万くらいの膨大な数字になっています。その間広島はどうしたかというとやっと100万になったところです。札幌に比べて明らかに人口の集積や拠点性が弱いということが言えると思います。それから一方仙台は、政令指定都市になって市町村合併をやり、あれよあれよと言ううちに広島に追いつきつつあります。このままだと仙台に広島は抜かれてしまうのではないかと、そういう危機感の時に札仙広福という論議が誕生したわけです。

私はその頃広島というのはどういう立場にあるかというと、鼓（つづみ）理論といって、ちょうど鼓の持ち手のところにあるということで、両サイドで高い音あるいはいい音色を出し

ているのが近畿経済圏であり、九州経済圏であるということです。北九州経済圏とか近畿経済圏という言葉はありますが、広島経済圏という言葉はありません。ちょうど鼓の持ち手のところで細くなっていて、両方からいい音色を聞きながらどんどん磁石に引っ張られて、だんだん細くなっていくわけで、年寄りの手でも持てるようになっているのが広島ではないかという憎まれ口を叩いたことがあるわけです。そういうことでは大変困るということで、我々は活性化の努力をしなければいけないということになったわけです。

つまり札仙広福と問題になった時にはこの四つの都市は競争にあって、広島はどうやら仙台にも抜かれるかもしれない、学生の数などをみても仙台の方がはるかに多いではないかということから、そういう危機感が出たわけです。今お話にありましたように、長い次元で考えてみますと確かに広島は停滞をしています。それから連れとしては名古屋がやや停滞気味であるということですから、従って長いレンジで考えてみますと確かに広島は停滞しています。それから連れとして名古屋もそうですから、本当に東京と大阪と福岡です。北の方は人口からいって東北の方が多いですから、東北ということになると思います。そういうことで経済力がある地域に集中しつつあることは間違いないと思います。

4．広島の将来展望を考える

橋口：そうやって広島の将来展望を考えてみますと、中国地方を一体としてその中枢の中に広島という座布団があるかどうかという問題になってくると思います。これは多少飛躍しますが、例えば道州制ということになりますとおそらく道州制の中心都市は広島になると思います。例えば中国地方が一つの道であるとすれば、これは広島は明らかに中心になります。こうなりますと広島は大変パワーがついてきます。その場合も地方分権といいましても道の中心の広島が一定の優位にたつということになって、これは広島はだいぶ強くなります。しかしそういうことがなくてこのままほおっておくと、広島というのはどっちに引っ張られるかということになると思います。

そして地図を見ますと、どう考えましても広島というのは中国地方のかなり西の方になりますから、どうしても北九州経済圏と仲良くするという形になると思います。中国地方の一体化ということを皆さん強くおっしゃっていますから、私は大変申し上げにくいと言いながらも西瀬戸経済圏の可能性ということを説いていたわけです。それはいろんな背景がありまして、一つは紀淡海峡からずっと第２国土軸が延びて、本当に愛媛と大分の間に橋かあるいは道路ができるとなると、そうすると大分から北の方にのぼって少なくとも北九州市、それからまた本土に渡りまして山口県から島根県、そして島根県から先程申したように南北軸が完成しますと、それは一つの圏域というものが生まれるのではないかと思います。ただし先程申しましたように、本当に大分と愛媛の間が繋が

るかというとこれは非常に大きなクエスチョンになるわけで、もしそれが出来ますと確かに広島は西瀬戸経済圏の一方の優位になるのではないかと思います。そして岡山を中心とした東瀬戸経済圏というのは、近畿経済圏の方に強く引っ張られていって、中四国地方というのは言うなれば股ざき現象になるのではないかということを申し上げたことがあると思います。ただ本当に愛媛と大分が繋がるかというと、これは適確に予想できません。そういう意味で申しますと九州の家来になるというわけではありませんが、愛媛と大分が繋がると九州の方と仲良くするという可能性は絶無ではないと私は思います。岡山はどちらかというと東を向くということで、連担的に広島から山口・北九州・福岡という一つの経済的な中枢都市のつながりという、そういう拠点都市が繋がるという形がこれは残念ながら先生のおっしゃることを承認せざるを得ないのではないかと思います。その場合も広島がパワーをつけていませんと、これはもう北九州に吸収されてしまいますから、やっぱり対抗するにおいてパワーをつけるということが必要だと思います。そうなれば対等の立場で話し合いもできるし、取引もできるということになるという感じがします。

5．都市の風格と広島の可能性

櫟本：そういうことで結局パワーがないということで、今のような話になってくるわけで、従って例えば徳島あるいは鳥取・岡山辺りが関西と一緒にやりたいと言うのもそれは結構ですが、関西の場末としてやるのがいいのか、むしろ広島と一緒にやる方がいいのかということもあり得るわけで、愛媛県も最近は広島と瀬戸内をまたいで一緒にやろうという意見もあるようです。完全にむこうを向いているわけではなく、広島を向いているところもあるわけです。そういう意味で広島が結構パワーを持ってそれなりに注目してもらえるような力を持てば、話は変わってくるのではないかと思います。そのパワーが現在ないわけです。そのパワーを持つ為には、橋口会頭のお話のような、例えばドーム球場を持つとか、もっと中国四国の人達が関心を持ってくれるような、広島市民だけが関心を持つのではなく、広島市民以外のよその中国四国の人達が関心を持ってくれるようなものを持てば、そういうパワーが出来上がってくるのではないかと思います。

橋口：一つ補足したいのは、都市というものを考えてみる場合は、経済力がなければいけないということは、当然そういうことは言えると思います。しかし広島県はマツダという自動車工場がありますし、名古屋は櫟本先生が言われたようにトヨタという自動車工場があります。勿論経済力はあるし、鉱工業指数は高い、だからと言ってその都市やその地域が尊敬されるかというと、必ずしもそうではないわけです。私はやはり都市はある種の風格を持たなければいけないと思います。経済力も風格の一つですが、それ以外に文化的な機能の発信とかいろんな要素があると思います。

広島は軍都としての50年、それから被爆都市としての50年、この100年を経過して新しい新生の年に立っているわけです。広島の都市としての風格ということを考えてみますと、例えばサッカーが広島にありますし、それからプロ野球もありますし、広響というシンフォニー楽団もあるわけです。福岡と比べてみますと、福岡にはもちろん交響楽団もありますしプロ野球もありますガ、Ｊリーグのチームはまだないようです。また、仙台もＪリーグのチームを持っていません。仙台の会頭からサッカーチームを持ちたいのだがどうしたらいいのかと相談を受けましたから、私は大変冷たくサッカーというのはどこか大きな企業が後援しないとできないんですよと、仙台の経済界でお金を集めてやると言っても、やはり主体となる所がなければなかなか難しいのではないかと言いました。広島の場合は有り難いことに、マツダというのは単に自動車を作るだけではなくて、プロ野球を育成し、サッカーチームを持っていたわけです。こういう事を我々は平素あまり認識をしていません。それから原爆ドームも世界遺産に指定されますし、厳島神社も大変な世界的な遺産です。従って都市の総合戦力といいますか、そういうものを考えてみますと、広島でもまだ発掘すればいろんな物があるのではないかと思います。

従って人口の集積とか、あるいは経済力の集積、都市の人気度とか、そういうことばかり考えて広島はとても福岡に後塵を拝するとか、仙台に抜かれてしまうと考える必要はないと思います。例えば千葉の県知事だったと思いますが話をした時、実は私どもにはシンフォニーがないということで、東京が近いためにないのですが、やはり都市の風格としてシンフォニー楽団を持たないと格好がつかないということで、どうやったらいいのかということを相談を受けました。そればかりではありませんが、こういうことも生かしていくことも必要だと思います。広島の場合は野球にしてもサッカーにしても、マツダが中心になって非常に早い時期からそういうスポーツに対して大きく後援しているわけです。

私はこうして見ていると、例えば明治の初めに広島から随分移民として海外に流出しましたが、それと同じように悪く言えば新しい物好きというか、新しいものにすぐ飛びついて、それを県民市民を挙げて盛り上げていくわけです。ところがあるところまでいくと、やや熱が冷めるというところがあります。例えばプロ野球にしても、もっとお金を使って強いチームにするということもできます。あるいはサッカーでも同じで、この間やっとちょっと芽がでましたが、サッカーの記事をみる時はまず敗者の欄を見ていましたが、最初から勝者の側からみるようにならなければ駄目だと会長に申し上げました。これも最初のファーストステージの時には非常に盛り上がりましたが、後は会場が遠いとかの理由でだんだん遠のいて、サッカー熱が減退していくのを放置しているようなところがあります。

従って私は広島としては中枢都市としていいところを数え出して、そしてそれを伸ばすということも考える必要もあるし、それからもっと広島という都市を国際的に訴える為に、昇華された原爆といいますか、原爆を受けたことをもっと高次のレベルで訴える

ということも必要だと思います。例えば私の持論ですが、広島には祈りの聖地というものがありません。広島は原爆の被害を受けて原爆ドームが残っていますが、これに加えて世界中の人が集まって広島に来れば、必ず訪れる祈りの聖地というものがあれば、そこに行って祈りを捧げるというそういう場所はないものだろうかと思います。沖縄に行ってみますと、犠牲者を慰霊するような場所が各所にあって、そこは非常に神聖な場所になっています。広島にもわたしはそういう聖地を設けるということも、一つの広島の都市としての風格を高める所以ではないかと思います。つまり都市として中枢性を高める為には、絶えず努力をして行かなければいけないし、絶えず変える努力をしていかないと、現状のままでは停滞した都市になってしまいます。従ってそういうふうに風格が出ますと、人口も増えますし、人口が増えなくても広島の都市の利用者が増えます。昨日の駅伝でおそらく広島のホテルも久しぶりに満員になりました。広島に行けば何かいい事があるといって、とにかく広島に行ってみよう、何かそういう広島の都市の風格を高めるということを、みんなの力でやっていくことが必要ではないかと思います。ちょっと蛇足になりましたが、都市は如何にあるべきかということを言わせて頂きました。

櫟本：それではここでフロアーの方々に両先生への質問なり議論がありましたら、ご発言をお願いできればと思います。

6．広島の福岡への指向性について

竹内：橋口会頭の基調講演は、実に明解で示唆に富んでおり、スカーッとしました。全国総合開発計画も、１次から４次迄の延長線上のものであっては、現段階まで来た我が国の現状からみて、果して必要であるか、と云う根本的疑問を投げかけられました。正に同感です。

さらに、国の規制・許認可のあり方についても抜本的に０にして必要なものから出直す必要があり、また開発計画というものには、Redundancyの要書が必要であるなど、誠に示唆に富むもので、さすがだと感銘を受けました。

九大の矢田教授による、各地方拠点都市の経済指標比較について意見を述べさせていただきます。まず初めに、先生は、広島と岡山はライバル同志だとおっしゃったので、ヘエー、他所眼からみると、そう映るのかなと感じました。おそらく、広島の中国地方における拠点性を論ずる場合、よく岡山を比較に挙げたり、又、最近は、南北軸で、岡山中心と、広島中心のことが論じられるから、そうみえるのかと思います。岡山は、「広島に追いつけ、追いこせ」を合言葉にしていると聞きますが、広島は、元来、岡山と張合う気持は余りもっていないーということを先づ申上げておきたい。

さて都市の経済指標比較において、行政上の都市域や数値比較は不十分であり、広域都市圏の集積度比較の方が実状にマッチする、と先生もおっしゃいました。全くその通

りです。しかし先生の広域都市圏比較では人口だけしかやられていません。工業なども工業統計表の地区別集積表もあり、可能です。工業については、最近の地域学者は、余り重視しません。むしろ、情報・流通などが拠点性には重要であるとする傾向にあります。

そこで一つの例を引きましょう。東北大学の西澤学長の提唱で、東北大学を中軸とするインテリジェント・コスモス構想による頭脳ネットワークづくりが、脚光をあびています。それ自体の重要性は高く評価するものです。しかし、地元仙台の悩みは、折角の技術開発の成果を、責留めて展開する企業が地元にないことであるといいます。もし広島なら、工業集積があり、中小企業の層も厚く、とくに中堅企業の厚さは、大いに対応しうる可能性をもつでしょう。又、同じ出荷額でも、いくつかの新産都のように、石油、鉄鋼など突出した大企業だけの場合と、広島地区のように、工業の歴史も古く、裾野の厚いのでは全く意味が違います。工業比較では、ここまで読みとる必要があると考えます。

先生が引用された海外便発着回数で、福岡は、広島に較べ圧倒的に大きい。広島からの福岡空港利用者も多い。広島はそれだけ福岡を頼りにしている。ーこの指摘は、このことに関する限り違います。広島の人は、欧米に行く時、成田空港を利用するのと同じ感じで利用しているに過ぎません。

頭脳拠点の指標として学生数の比較がありますが、それが人材養成基地としての意味は、わが国にとって大きいです。しかし例えば京都のように、大学数、学生数共々大きな都市であっても、そのことが、地元経済の厚味をレベルアップすることにはつながっていません。従って学生数比較だけでは、余り意味をなしません。

今後のわが国のあり方にとって、国際社会の中で、どう位置づけ、どう貢献しうるかが主要な時代となっています。国や各地も、それにいかに対応しうるかが大きな課題となるでしょう。各都市の量的比較より、質的なあり方が基本的課題になると考えます。

数年前、ゴルバチョフ氏が初めて来日し、東京で、国内のどこを訪ねたいかと尋ねられ、広島と第一に希望しました。そして広島に来ての市民集会で講演しました。「原爆廃絶と世界の平和のメッカを目指すこの地に来て、自分は身が震えるほどの感動を覚えている」という彼の講演に、私も大きな感動を覚えたことを記憶しています。世界中から、何を期待されるかを受止めることが地方都市の、一つの大きな目標となるべきでしょう。

矢田：後者の点では全く異論はありませんし、それぞれが必ずしも量でなくて質の問題であるということです。広島にとって福岡は興味ないということについてですが、大変面白い話で、日本は全部上りの方向に向いています。バス停でさえ駅に向かって毎日行きますが、反対方向については殆ど興味がありません。岡山は広島に興味がなくて大阪にありますし、広島も大阪・東京に向いています。基本的にこのベクトルは働いていると思っていますが、しかし大変面白いことは、広島県から３～４年前に委託を受けまして、瞬間ですが広島県の高校卒業者の県外第１位が東京を追い越して福岡になっていま

す。ということをどう思うかということで調査を依頼されました。若者の発想はだいぶ違っていて単純なのぼり思考ではありません。進学に関してですが、１位は県内で２位は東京でしたがある年の何年間は福岡でした。それから福岡空港を使ってアジアに向けて行く広島の客が相当おります。福岡空港という所がある面では、関空があり成田があり名古屋があります。そういう中で選択の一つとしてかなり福岡空港は重視されています。そういう点では若者あるいは国際派の動きは必ずしも上りだけを見ているわけではありません。わりと年を取れば取るほど殆ど背中を見たことはありませんが、下りの方向はいらないわけですが、どうも若者の選択は特に遊びとか進学とか外国に行くとかとなると、結構広島の方は来て居ます。そういう交流は非常に強まっているのかなと私は思っています。依然として東京指向のベクトルが強いとは思いますが、違った魅力を作れば下りでさえ若者は来る、先程仰った都市の魅力によってはベクトルを変えられる。そういう点ではリンケージ戦略は非常に重要だと思います。

私は空港も大学も都市機能の重要な一つであって、交流というのが都市のポイントですから、人が出入りするようないろんなチャンス、先程橋口会頭が言われたように、広島はイベント都市として相当な力を持っていると思います。イベントはいろんな所から引きつけますから、空港も大学も個々のイベントも全て都市の活性化のポイントだと思っていますから、個人がたまたまであることと都市の機能はまた別だと思います。

橋口：都市というのは何故か西の方に発展する傾向があります。広島でも西部にどんどん発展しまして、東の方は地理的な条件もありますが、あまり発展しません。東京もそうでして、西の方に発展をしてやっと最近東の方に人が向くようになってきて、これも面白い話ですが、西の方に向かう私鉄がたくさんありますが、これもだいたい南の方がよくて北に行くほど駄目なんです。東横線が一番偉くて、何故か西の方に都市というのは発展して、西の方の南の方が価値が高いということです。ロンドンもそうでして、イーストエンドといって貧民街です。ただ一つニューヨークだけは違います。ニューヨークは東の方がよくて西の方は港の地域でよくありません。おしなべてだいたい西の方がいいわけです。これは私もよく分からないのですが、朝出勤する時は東に向いていくわけです。東指向ということで、西の方は西方浄土で、あそこに行けばいい国があるというのか、人間の行動として東がいいのか西がいいのかというのは、これは私は分析の対象に成りうる問題ではないかと思います。それともう一つは日本では上り指向だということで、それはたまたま東京が日本の東の方の地域にあるということですから、仙台は別にしてもたまたま東に行けば首都が東京にあるということではないかと思います。仮に広島に首都があった場合には、西に行くということが決して抵抗感はないように思います。これは全て人間の習慣の問題ではないかと思います。ただ都市の場合は何故か西の方に発展していくというのは、何か理由があるのかどうかですが、教えて頂ければ幸いなんですが。

矢田：おっしゃる通りしょっちゅう言われていますが、論文は結構あります。だいたい日本では名古屋が東にありますが、それ以外は殆どは西にあります。しかし納得できる説明論文はみたことはありません。

櫟本：他にフロアーでご質問はありませんか。先程の矢田先生のデータで、学生の受け皿が足らないということですが、これは広島市内から広島大学が移転した為でしょうが、県単位であれば広大の移転は関係ありません。学生の場合には札仙広福の広だけを除いて、後はいわゆる帝大系なんです。帝大と広島大学のような文理大というか教育大学ではちょっと性格が違うと思います。

7．補助金制度の根本的な見直し

橋口：先程戦後できた制度を根本的に見直す時期に来ていると言いましたが、都市の発展、それから中山間地の発展についても、これはやはり日本政府の補助金体系というのが大変邪魔をしているような感じがしています。これはご承知の方もあるかもしれませんが、やや昔の話かもしれませんが、農林省が各局・各課・各係に補助金がついています。補助金を運営する為に係が生まれたのか、係があるから補助金が生まれたのか分かりませんが、これは全部縦で県・市町村につながっているわけです。これは農林省に限りませんが農林省が一番典型的に多いということです。そして査定をみていますと、主査という課長補佐がいて、そうすると似たような補助金がたくさんあるわけです。２時間も３時間も説明しますから、主査が説明を間違え、違った補助金の説明をしていて、それを聞いている主計官も次長もだれも分からなくて、８割か６割で合格しているわけです。そして次にまた同じようなのがでてきて、それぐらい似たような補助金がずらっと並んでいるわけです。それが県を通じて都市とか農村に流れるわけです。

これは前からある議論なんですが、補助金を統合しまして一般補助金みたいなものにしてはどうかと。一般補助金と交付金はどう違うかという議論があるわけですが、ここまで来ますとやはり各省・各局・各課・各係というものを整理して、これは整理をするということより１度ストップするぐらいのことでないと、それが全部縦の紐がついていますから、何かやるにしても補助金の決められた補助要綱の通りに使わないといけないわけです。そこが末端で、これはちょっと実情に合わないから変えようということは殆ど困難です。その代わり悪知恵のある所は、具体的に言うとちょっと差し障りがありますが、ある施設が出来てこれは殆ど国のお金で出来ていて、知恵を出すとできるわけです。この部分は農林省、この部分は林野庁、この部分は労働省というように、施設が全部国の補助金でできるということもあります。考えてみますとその施設を作るのに四つも五つも省庁が関与しているわけです。あちこちに陳情するのは大変なことです。それ

が割にスポット一つの省庁で出来、あるいは一般補助金で県の方にこういうものに使う限りは自由に使っていいということにして、そうするとあっという間に施設ができます。従って都市を伸ばす為にも、あるいは中山間地を開発の為にも、これは今の補助体系というのは非常に問題があります。

とかく批判はありましたが、竹下内閣の時に一村一億というのをやりましたが、あれは弊害もありましたが同時に非常にいいことだと思います。一億貰って温泉を掘る所もあれば、施設を作るとか、ああいうふうに自由に使えるお金を増やさないと、本当に日本の都市も農村もよくならないと思います。従ってそういうことを自身の体験も踏まえまして、また反省の上に立って挑戦して、単に行政改革という掛け声だけでは駄目なんです。国家の仕組みを変えるということをやらないと、地方分権というのは言葉だけで殆ど進んでいません。国が全部補助金を握っているわけですから、今の県の単独事業は増えていますが、単独事業をやり過ぎた所もありますし、単独事業でやれやれと言うだけで実はやらなかったという所もあって、単独事業そのものにも問題はあると思いますが、単独事業というのはあくまでも補完的なものです。あとは全部国の補助がついていますから、そういうところも本当に直していかないと、つまり自由で伸び伸びとした集落とか都市を作るには、非常に障害が多いということを申し上げたいと思います。

櫟本：活性化センターの野田さん、何かご質問はありませんか。

8．ドーム球場の建設と都市機能の強化

野田：橋口さんのお話の中に、都市の機能を強化する意味で跡地にドームなどを作るとかいうお話がありまして、非常に心強く思っています。是非私はあそこにドームを作って、賑わいの場所にして頂けたらと思います。福岡のドームも行きましたし、ホテルができた後に非常に相乗効果が現れて羨ましく思っています。問題はお金を集めることも大変ですし、いろいろ障害があると思いますが、是非、地下街も建設中ですし、これも非常にいいし、また出島のドームという話がありますが、あの出島のドームというのはやはりコンベンションというか展示場的なもので結構だと思います。やはり楽しめるドームというものを是非作って頂きたいと思って、非常に共鳴しています。

橋口：いろいろ議論も出ていまして、作るなら福岡よりもっと大きい物を作らなければいけないという発想もあります。福岡のドームは開閉しますが、あれは開閉すると物凄く高くつきます。開閉しないものでやれば安くつきますが、どうしたものかなというまだ世間話の段階です。何よりも福岡より大きく立派なものにしようと、その為にはお金がいるわけで、どうしたらいいのかということで悩んでいるわけです。

櫟本：野田さんのところでお考えの広島ドームは５万人規模ですから、大きさだけで言えば福岡ドームより大きいので、どうぞご安心のほどを。但しお金のほうはまた会議所にいろいろご面倒をみて頂かなければと思います。

橋口：雑談ですが、福岡ドームに行った時に、寄付した名前がプレートに貼ってあって、それは寄付した順番になっています。普通に考えると九州電力が一番かと思うと、それが下の方に名前がでているわけです。これは非常にいいアイデアだと思いました。普通だと九電が先に出るのですが、ちょっともめたという話も聞いていましたから、こんどやる時はその辺も十分配慮しながらやりたいと思います。

櫟本：多分広島の場合は広銀が最初に出るはずです。ご質問がありましたらどうぞ。

９．中国・四国の南北連携と社会基盤整備

小島：私は四国の土佐の生まれでして、南北軸のお話が非常に強烈でした。広島にずっと青年時代から住んでいるわけですが、経済の流れはどうしても関西・東京あるいは名古屋に向いているのですが、私も長いこと広島に住みましたので、何とかして南北軸のことで自分が役に立てることはないかと考えています。櫟本先生がおっしゃったように、広島文理大とかの流れでは全国から人が集まってきました。それから厳然としてあるのは、お酒の杜氏は今でもノウハウを知りに来ています。これはかなり広島からあちこちに伝わっています。そういう意味で広島の中枢性がそういうところにあります。それから櫟本先生が仰っておられる日本海の海岸美、それから瀬戸内海の海岸美、それから太平洋の海岸美と、これが橋ができますと１日で体感できます。この自然はどこにもないと思います。おそらく世界中でここだけだろうと思います。そういったことから橋口先生がおっしゃいました祈りの聖地というものを初めて今日お伺いしましたが、非常に広島に対しては世界的に名前のブランドが高くなっていて、日本は知らなくても広島というとどこでも通るということです。何とか広島の中枢性があって、南北軸の地域というものが形成されないかなと思うわけです。そこで広島は何をすべきかということです。そういうことから今のままの流れでは、どうしても高知のような所は、人の流れとか、お金の流れとか、情報の流れなどはどうしても向こうを向いています。松江もそうなりがちだと思います。鳥取は完全に大阪に向いていますから、そういったことから広島が中心になっていくについては、西日本が仲良くする為にも広島が中心であるという為にも、力を持つためにも、どういう動きを個人レベルでもあるいはグループ活動ででもやっていったらいいのかなということでご示唆を頂きたいと思います。

橋口：広島は不景気なことが多いというお話が多かったのですが、コミューターのこと

を申し上げてみたいと思いますが、あれは広島ー大分ー松山の三角関係で、都市間のコミューターというのは全国で初めてだったわけです。これはなかなか経営的には困難がありまして、県市も支援をするという恰好で今日まで来たわけです。ここまできて勿論広島ー松山ー大分だけではありませんで、新潟にも飛んでいますし、長崎にも飛んでいました。長崎は初めは成績が良かったのですが、今はあまり成績が良くなくて、まだ具体的な発表段階ではありませんが、いろいろ拡大や整理の動きがあります。都市間コミューターを増やしまして、それで県市も支援するということで、折角広島に初めてともったコミューターの灯を消してはいけないということでやっています。これが出雲にも今度は飛ぶようになって、非常に需要の高い所に飛ぶようになりますと、それだけで広島の中枢性がかなり高くなってきます。そこでお願いしたいのは、コミューターがあちこち飛ぶようになりましたら、是非乗ってやって頂きたいということです。それが一つの支援に対する縁になると思います。

私はやはり結局まだインフラの整備が十分でないということだと思います。先程は詳しく申しませんでしたが、今治まで橋が架かりまして、今治から松山に行くのに高規格道路がないわけです。仮に橋が架かりましても今治の人が広島空港に来て、国際便に乗る。それから国際線は今年の２月には上海に飛びますし、９月には香港便が増便されますし、仙台ほどではありませんが、広島も国際定期便が随分飛ぶようになりましたので、広島空港をどう利用してもらうかということが、私は非常に大きなテーマではないかと思います。そういう意味で仮に西瀬戸自動車道ができましても、今治の方が広島空港に来られることは可能であっても、松山の方が来られるというのは殆ど不可能だと思います。従って松山への高規格道路を作る必要はありますが、何よりも高知に向かっての高規格道路というのは将来必要になってくると思います。

それから中国地方で言いますと、鳥取の方は別としまして、松江の方が広島空港を利用できるようになるにはどうしたら良いか、あるいは府中の方が容易に利用できるにはどうしたら良いか、つまり国際空港ができまして3000mになりますと、今は霧が出たり雨が降ったりすると着陸できないのですが、ＩＳＬのグレードを一つ上げると殆ど着陸できます。今、グレードの高いものがあるのは釧路と熊本ですが、その次の段階ですがなかなかつけてもらえません。そういうふうに空港の機能をグレードアップしまして、そして空港へのアクセスをもっともっと容易にできるようにしますと、これはやはり広島の拠点性も高まりますし、空港の機能というものも広島の中枢性に役立つと思います。

従って私が申し上げたいのは、やはりまだ今の段階でもインフラの整備であります。インフラの整備が十分できないと、本当に広島のパワーというのは発揮できないと思います。東西線はとにかく出来ましたが、しかし縦の南北線というのは十分でありません。山陽自動車道ができましても、自動車道から都市までの距離が意外に遠い所があります。今更どうにもなりませんが、山陽自動車道から都市までにもっと簡単に来れるようなことを考えないと、やはり地域の人のパワーは出ないと思います。従って東西が出来たか

らもう全てよしということではないと思います。それよりも何よりも、やはり日本海から瀬戸内海に通じて太平洋にでるようなインフラの整備を先ず急いでやるということが、最大の問題ではないかなと私は思います。

10. 地域連携軸の形成と西南圏構想

矢田：四全総のフォローアップの時に地域連携軸というのが出てまいりまして、元々櫟本先生もそういう機会があったかと思いますが、経済地理をやっている我々が地域軸という発想を提起してきました。それが地域連携軸という言葉で導入されてきました。何を考えているかというと、都市が持っている固有の市場圏を北九州と福岡あるいは福岡と広島が市場圏を争っているような都市づくりというのはやめたらとはっきり言いました。我々は元々福岡200万、北九州150万、そして北九州が福岡に取られるから何とか頑張ろうというのが都市の競争の原理です。合わせると350万の市場圏ですから、お互いが市場圏を取り合う相手にしてビジネスをやったらどうかということです。350万相手にしたビジネスだったら、同じものを150万で北九州に作り200万で作りそして宗像で境界あらそいをする。ちょうど福岡と広島のような話をいくらやっても仕方がないわけです。合わせると300万か400万の人口を相手にしてビジネスをやったらいいので、先程会頭が言われたように、ここでイベントをどんどんやっていって、それで福岡や北九州の300万の人間が魅力がしればどんどん来ます。逆であれば福岡にドームを作りいろんな人を連れてくれば、結構広島からも車で来ます。どっちが取り合うのではなくて、トータルの人口で1000万と400万を相手にして広島がイベントをやり、要するに広島の市場圏を拡大するというようなけちな話ではなくて、北九州も広島がイベントをした時にはお客なんだという考えです。福岡でイベントをうった時に広島も山口もお客なんだということで、違ったイベントをうてば両方動きます。そういう発想が西南圏という発想でして、リンケージという発想です。

ですからプロ野球広島があり、サンフレッチェあり、それからアジア大会をうつということは、かなり福岡の人も動いています。それを意識してアジア大会に対してユニバーシアードをやりダイエーを作り、そして今度は福岡がＪリーグ入りしています。ある面ではかなり意識しながら作っていますが、これがお互いに市場圏を分け合うような競争ではなくて、お互いが1400万を相手にした競争をやっていけばいいわけです。具体的にはそういうイベントの話と同時に、我々はやはり新幹線に乗って遊びにいく時に一番重視するのが倉敷の美術館です。やはりあそこに行きたいという人はかなりいます。全く逆もありますから、おそらく美術館にしろいろんなことにしろ、非常に魅力があれば１時間ちょっとで動ける範囲ですから、かなりハイレベルの文化施設が出来上がって、魅力的であれば十分吸収できます。行ったり来たりするということ、それが私は地域の連携であって、トータルレベルの高い機能をどちらかで作って、どちらも合わせて作って

いけばいいということです。

これが地域連携軸の構想であって、出雲と松江と米子が取り合うなどという話はやめて、三つが合わせて30～40万の人口を相手にして、それぞれが市場だと思って作っていけば、トータルして一つの機能を作りますよというのが地域連携軸構想だと思います。私は広島・福岡あるいは北九州あるいは間にある山口というのはそれぞれの魅力ある、相手にすべきところはトータル相手の市場であるというのが連携軸であって、やたら競争してお互いが山口県をどの辺で分けますという議論はやめた方がいいという発想です。具体的にはこちらで大学の話をしていますが、福岡の大学が強いのは帝大と広島大という話ではなくて、マンモス私立大学を２～３つ抱えています。福大と九州産業大学という大学です。それがやはり広島を相当引きつけています。全く芸術指向の新しい大学が広島にできるということは、よくよく見ていると福岡市には美術指向の大学が全くないわけです。絵と音楽系はありません。そうすると東京に行くか大阪に行くか京都に行くしかないわけで、魅力的な広島で大学が出来れば芸術指向の人はまだまだ出てきます。外国語系になると北九州大学はいろんな地域から集めています。

そういった1400万が楽しめる機能の中で何が足りないのか、東京と大阪しかなくて1400万を相手にするには何が足りないのかなということをずっと戦略を打てば、山口県にいい美術館を作ればみんなは行きます。久留米・倉敷にはかなり魅力的な美術館を作っています。広島は島根・松江をしてエリアをつくるということも私は反対ではありませんが、要するに北部九州1000万を相手にしたイベントとビジネスと施設を作れば相当うごきます。そういう1400の西南圏構想であり地域連携構想です。その辺はやたら競り合う発想というのが一番時代遅れなのかなと思っていますので、依然として連携する戦略というのがこれからのポイントではないかと思います。全てにおいて指導者のセンスの問題であり、行政のトップの人の問題、財界のセンス、大学の人達の地域エゴ的なセンスの問題を、どれだけ早くクリアした方がおそらく新しい若者の流れに乗っていくのかなと思っています。いずれもこれは地方では最大のネックになるのではないかなと思います。

11. おわりに

櫟本：今日はお二人の貴重な意見を賜りました。橋口会頭には本当に広島の経済のリーダーとしての深い話から大きな話から、現実の会議所のいろんな提言その他を賜りました。大変ありがとうございました。矢田先生はかねがね私どもといつも論争しているのですが、非常に説得力のあるお話をされていました。そういう意味で私だけが聞くのは勿体ない話ですから、広島の皆様方にお聞き頂こうということでお招きしました。いろいろ賛成者もいらっしゃいますし、反論者もいらっしゃると思いますが、一つの貴重なるご意見を賜ったということで、我々も広島側としていろいろ考えさせて頂いたと思い

ます。

今日は皆様方最後までご静聴いただきましてありがとうございました。この地域経済研究センターも７年を終わろうとしていますが、今日同時に開催しました計画行政学会は15年目になります。広島市での産官学の連携ということで、地域のことを考えようという共通の目的を持っています。皆さん方のご参加ありがとうございました。